

みずほCustomer Desk Report 2019/01/28 号(As of 2019/01/25)

国際為替部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	109.78
TKY 9:00AM	109.60	1.1313	123.95	1.3119	0.7090
SYD-NY High	109.95	1.1418	125.31	1.3218	0.7185
SYD-NY Low	109.46	1.1301	123.80	1.3060	0.7076
NY 5:00 PM	109.55	1.1405	124.95	1.3197	0.7181
NY DOW	24,737.20	183.96	日本2年債	-0.1700	▲1.00bp
NASDAQ	7,164.86	91.40	日本10年債	0.0000	▲1.00bp
S&P	2,664.76	22.43	米国2年債	2.6084	4.32bp
日経平均	20,773.56	198.93	米国5年債	2.5967	4.73bp
TOPIX	1,566.10	13.50	米国10年債	2.7576	4.28bp
シカゴ日経先物	20,810.00	30.00	独10年債	0.1910	1.20bp
ロンドンFT	6,809.22	▲ 9.73	英10年債	1.3040	4.05bp
DAX	11,281.79	151.61	豪10年債	2.2085	▲5.50bp
ハンセン指数	27,569.19	448.21	USDJPY 1M Vol	6.50	▲0.08%
上海総合	2601.7234	10.03	USDJPY 3M Vol	7.04	▲0.09%
NY金	1298.1	18.3	USDJPY 6M Vol	7.63	0.01%
WTI	53.69	0.56	USDJPY 1M 25RR	-1.04	Yen Call Over
CRB指数	180.68	1.44	EURJPY 3M Vol	7.77	▲0.14%
ドルインデックス	95.79	▲ 0.81	EURJPY 6M Vol	8.30	▲0.08%

東京	東京オープン前、北アイルランドの強硬派である民主統一党(DUP)がメイ首相の離脱合意案への支持を非公式に同意したとの一部報道を受けて、英ポンドが急騰。クロス円の上昇につれてドル円も上昇に転じ、109.60レベルでオープン後も円売り優勢地合いが継続。ドル円は堅調な日経平均にもサポートされ、一時109.87まで上昇した。しかしながら、次週に控えるFOMCや米中通商協議を控え、上値追いは限定的となり109.83レベルで海外市場に渡った。
ロンドン	ロンドン時間のドル円は109.83レベルでオープン。特段の材料が無いなか、早朝は方向感なく推移。午前中は狭いレンジで推移し、一時109.91まで上昇する局面もあったが、結局109.88レベルでNYへ渡った。ポンドドルは1.3118レベルでオープン、29日に控えた英国のEU離脱代替案を採択する英議会の結果にかかる不透明感が続くなか、アジア時間で上昇した分を吐き出し一時1.3063まで低下する。ただ、その後目新しい材料が無かったものの1.31台を回復する場面もあったが、結局1.3088レベルでNYへ渡った。(ポンドドルフリー 00531 444 179 マルヒル)
ニューヨーク	メイ首相のEU離脱案をDUPが非公式に合意と英夕刊紙が報じ、ポンド円が上昇する動きや、昨日中国人民銀行が新たな流動性ファンリティ(CBS)を発表したことからクロス円が堅調に推移する動きに、ドル円は下値をサポートされ、109.91まで戻し、109.88レベルでNYオープン。朝方は、海外市場の流れを引き継ぎ109.95まで戻すものの、このレベルでは売り意欲は強く、109.54まで反落する。その後は109.60付近での推移がしばらく続くが、米連邦航空局が管制官不足の為、NYのラガーディア空港着便を一時停止すると発表し、一部政府閉鎖の影響が徐々に顕著になっていることが明らかになる中、米メディアが「トランプ大統領が予算に署名し政府閉鎖を解除する意向」と伝えたことから円売りが強まり、ドル円は109.91まで戻す。午後はトランプ大統領が3週間の政府機関の閉鎖解除に合意することを発表し、利益確定のドル売りが持ち込まれたことから109.57まで反落する。終盤に掛けては、更にドル売りが持ち込まれたことから、109.46まで下落し、109.55レベルでクロスした。一方、1月独IFOが予想を下回ったものの、ポンドドルが上昇する動きに連れて1.1350まで戻したユーロドルは、1.1342レベルでNYオープン。朝方はドル売りが再び強まったことから1.1415まで戻す。午後は、前述のトランプ大統領のヘッドラインを受けドル買いが優勢となる一方、ユーロ円が上昇する展開に、ユーロドルは値動きを挟まれ、狭いレンジでの推移が続く。終盤に掛けては、トランプ大統領が政府閉鎖解除に合意と発表したことから、利益確定のドル売りが優勢となり、1.1418まで上昇し、1.1405レベルでクロスした。(NY井上)

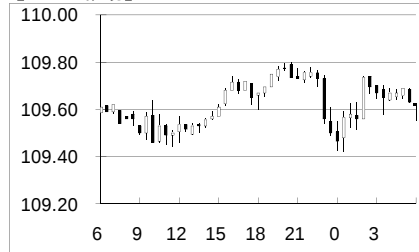
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
1月25日	18:00	独	IFO指数(企業景況感/期待/現況)	1月 99.1/94.2/104.3 100.7/97.1/104.2

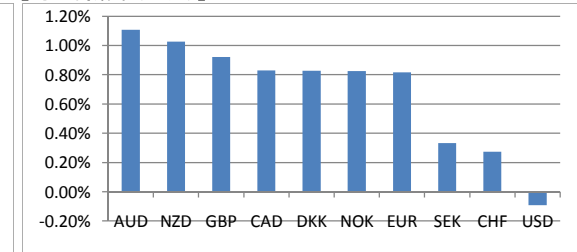
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
1月28日	22:30	米	シカゴ連銀全米活動指数	12月 - 0.22
	23:00	欧	ドラギECB総裁 講演	
1月29日	0:00	米	ダラス連銀製造業活動	1月 -2.7 -5.1

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	109.00-110.00	1.1350-1.1500	124.00-125.50

【マーケットインプレッション】

先週末のドル円は、アジア時間の朝方に英紙がメイ首相のEU離脱案をDUPが非公式に合意と報じたことにより、リスク警戒感が後退し、ポンド円をはじめとするクロス円の上昇に支えられる形で堅調に推移。海外時間に一時109.95まで上昇するも、このレベルでは上値の重さが意識され109円台半ばまで一旦下落。その後、米メディアがトランプ大統領が予算に署名し政府閉鎖を解除する意向と伝えられ再び円売りが強まり、ドル円は109.91まで反発したものの、トランプ大統領が3週間の政府機関の閉鎖解除に合意すると発表すると、利益確定の動きからドル円は109円台半ばまで再び下落、そのまま越週する展開となった。米政府機関の閉鎖解除については民主党との意見の隔たりを勘案すると3週間以内に解決を迎えられるかは依然不透明な状況。こうした状況下、引き続き英国並びに米国の動向を見極めんとする姿勢が継続し、ドル円も109円台半ばを中心とするレンジ相場となるもの予想している。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:光石・綱島